

I 法人本部

1. 基本方針及び基本理念

1997年法人設立当初より掲げてきた、自然との共生を目指し、ものづくりひとすじの思いを土台とした法人運営を行った。

～ 基本理念 ～

- ・ 私たちは、自然との共生・地球環境の保全に寄与し、資源の循環を目指します
- ・ 私たちは、自然の中に生かされていることを自覚し、地域とともに、共生社会の発展に努めます
- ・ 私たちは、利用者さんの自己実現のために、一人ひとりにしっかり寄り添い、声なき声をくみ取ります
- ・ 私たちは、職員一人ひとりが法人の一員であることを自覚し、社会人として常に研鑽を積んでいきます

———— 平成28年2月25日制定 ————

2. 令和5年度 重点取り組み事項

(1) 中期経営計画の進捗状況 (2020年度～2024年度)

令和2年度策定、5か年の中期経営計画

4年目の進捗状況：達成できた項目は約40%、概ね達成を含めると約90%の達成率で、前年度並みであった。

詳細については、事業所毎、事業報告として掲載。

令和6年度は、次期の計画策定年度となる。

(2) 実習農園 (ひくまのファーム) 作業環境の整備

- ・ 倉庫及び施設内トイレ施設整備

浜松市中央区根洗町508番3 (宅地) 293.80 m³

軽量鉄骨造 床面積 37.60 m²

随意契約 (3社業者見積合わせ) (株)リンクに決定

金額 8,432 千円

(3) 手織り小舎百里外装及び大手門木製門扉, なまこ壁塗装改修工事

- ・ 施設敷地内

随意契約 (2社業者見積合わせ) (株)リンクに決定

金額 1,463 千円

3. 評議員会・理事会等

(1) 評議員会 (1回)

開催月日	出席者数	審議事項
令和5年6月15日 第1回	評議員 7名 理事 2名 監事 2名	決議事項 ・令和4年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書） 附属明細書並びに財産目録の承認の件 ・新役員（理事・監事）選任について ・報告事項 令和4年度事業報告

(2) 理事会 (5回)

開催月日	出席者数	審議事項
令和5年5月30日 第1回	理事 6名 監事 1名	決議事項 ・令和4年度事業報告 ・令和4年度計算書類、附属明細書及び財産目録承認 ・定時評議員会招集の件 ・評議員選任解任委員会委員について ・新役員（理事、監事）候補者決定について 報告事項 ・理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
令和5年6月15日 第2回	理事 7名 監事 2名	決議事項 ・理事長の選任の件 業務執行理事の件 ・実習農園施設整備について ・実習農園及び手織り小舎百里等改修工事経費借入の件
令和5年12月7日 第3回	理事 7名 監事 2名	決議事項 ・ひくまの修繕積立金取崩しの件 ・令和5年度第一次補正予算の件
令和6年3月14日 第4回	理事 7名 監事 2名	決議事項 ・令和5年度第二次補正予算 ・令和6年度事業計画、当初予算の件 ・令和6年度役員賠償責任保険の件 ・経理規程の改正の件 ・評議員選任解任委員会運営規則の改正 ・運営規程の改正 ひくまの（生活介護、就労継続支援B型事業） やしま（共同生活援助事業所）

(3) 監事監査（業務執行状況及び財産の状況を監査）

開催月日	種別	監査項目
令和5年5月19日	決算監査	・令和4年度事業報告書 ・令和4年度計算書類及びその附属明細書並びに財産目録
令和5年11月9日	定期監査	・令和5年度中間(令和5年4月～令和5年9月)業務監査・会計監査

(4) 会計事務所による月次指導

開催月日	内容
毎月1回	・会計処理業務の指導及び経営支援

(5) 浜松市による社会福祉施設等の指導監査（法人監査）

開催日時	指 導 項 目
令和6年1月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・文書指摘事項 理事及び監事に対する報酬等については、評議員会の了承を得ていないことが認められた。評議員会の了承を得ること。 → 6月開催の定時評議員会で承認を得る ・口頭指摘事項 7項目

4. 会議・研修等

(1) 内部会議

会 議	実施（曜）日	参 加 者
運営会議	月1回	理事長、施設長、事務長、次長
虐待防止・身体拘束 対策委員会	原則 月1回 その他必要に応じて	理事長、施設長、事務長、次長
感染対策委員会		
企画会議	第2火曜日	主任、サービス管理責任者
工賃評定会議	半年に1回・適宜	園長、サービス管理責任者、主任
職員会議	毎月1回 毎朝(15分)、毎夕 (15分)	全 員
支援会議	2か月に1回・適宜	全 員

(2) 内部研修

研 修 名	内 容
法人全体職員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回テーマ別研修会を実施 10月21日 テーマ「虐待防止活動は何のために行う」 3月29日 テーマ「理念に沿った取り組み 今こそ」 サポーターズカレッジを活用、その他 意見交換 令和5年度補正予算、授産事業について等
新規採用職員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・9月14日 3名 法人理念、就業規程・給与規程、倫理綱領等 グループ討議
内部研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修サービス「サポーターズカレッジ」を活用 キャリア別、希望するテーマ別研修。
自己啓発研修	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の振り返りチェックシートを使用して自己啓発につとめた。
個別支援研修	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所毎に研修計画を立て、年間6～12回実施。 支援への共通認識を深め、相談しやすい職場づくりも兼ねた。

(3) 外部会議

- ・管理部門研修： 新型コロナの影響でリモートによる会議。
- ・キャリアアップ研修： 年間18回の研修に、施設長・サビ管他、22人が参加（リモート含む）

5. 施設運営

(1) 施設の概要

令和6年3月31日現在)

名称	ひくまの		みなみ	まつかさ	やしま		あかね	
種類	生活介護	就労継続支援 B型	就労継続支援 B型	就労継続支援 B型	共同生活 援助	短期 入所	共同生活 援助	短期入所
利用定員	15	40	25	20	7	1	7	1
在籍数	14	47	26	20	7	—	7	—

(2) 施設整備及び主な修繕（100万円を超えるもの）

①施設整備

(単位：千円)

事業所名	内容	金額
ひくまの	実習農園ひくまのファーム倉庫新築工事	8,215

②主な修繕

(単位：千円)

100万円を超える修繕なし

6. 職員構成

(令和6年年3月31日現在)

施設等 職種	多機能型事業所 「ひくまの」		就労継続支援B型 「みなみ」	就労継続支援B型 「まつかさ」	共同生活援助 「やしま」	共同生活援助 ・短期入所 「あかね」	計
	就労B	生活介護					
理事長（園長）	1(1)						1 (1)
施設長	1		1	1	1	1	5
嘱託医		1 (1)					1 (1)
サービス管理責任者	1(兼) 1	1	1(兼)	1(兼)	1(兼)	1(兼)	2 (兼5)
職業指導員	4 (1)		2	2			8 (1)
生活支援員	5 (3)	3	4 (3)	2 (1)	4(兼1) (3)	5(兼1) (4)	23 (14)
看護師		2(兼1) (1)					2 (1)
世話人					6(兼1) (5)	4 (4)	10 (9)
事務員	3 (1)						3 (1)
運転手			2 (2)		*5(5)	*1(1)	2 (2) *6 (6)
計	22 (9)		11 (7)	5 (1)	11 (10)	11 (10)	60 (37)

() 内の数字は非常勤職員の数で再掲。 ※ グループホーム宿直専門職員

7. 主な年間共通行事

実施日	行事名
令和5年6月23日	・家族会総会

Ⅱ ひくまの（多機能型事業所）

1. 施設運営

（1）生活介護事業

- ・日常生活に必要な食事、整容、排泄等の介護や働くこと、創作活動などの機会を日中活動の中で提供し、「スマイル」の通称のように利用者の喜びや自己実現を活動を通じて支援し、また、個別支援計画に沿い、きめ細やかな支援を提供した。
- ・本館2階を主会場としてスマイル独自の独立した活動を意識して展開し、利用者の意思決定を大切にしながら日中活動を提供してきた。また生産活動では、スマイル独自の商品を積極的に開発し、販売等につなげてきた。
- ・独自の商品として、ハンガーに毛糸を結び付けて成形したモップや、刺繍をした布を使ってヘアゴム、ブローチ、ストラップを製作した。モップは8点4,000円、刺繍製品は12点10,000円の売り上げをイベント等で出すことができた。
- ・パンジーをプランターに定植し、灌水、追肥、花摘みをスマイルで担当した。県庁舎に設置していただく製品として2月に30鉢を納品をした。（52,800の収入）
- ・新型コロナウイルス感染症等への対策として、清潔な環境を整え、手洗い、手指消毒、検温を行い、感染予防に努めたが、2月上旬から中旬にかけて、利用者7名、職員2名の感染者が出た。休業することなく事業は継続したが、この月は出席率の低下が顕著であった。また12月に在籍者数が1名減ったことと合わせて(15名→14名)介護給付費の大幅な減額の要因となった。
- ・毎月1回、虐待防止及び身体拘束に関する委員会を開催し、業務振り返りシートなどを参考にし、虐待の未然防止と身体拘束の適正化に努めた。
- ・1月以降毎月1回、感染症対策委員会を開催し、看護師も同席して感染症対策に関する話し合いの場が設けられるようになった。
- ・安全運転管理者選任事業所として、社用車を運転する職員に対してアルコール検知器での確認を義務化し、安全運転の意識向上を図った。

（2）就労継続支援事業（B型）

- ・働く場として就労の機会を提供し、利用者の働く喜びが保障され、働く力、人として生きていく力が備わるよう個別支援計画に沿い、きめ細やかな支援を提供した。
- ・作業内容は、小規模多機能の形態を維持し、利用者の意思決定が毎日の生活や活動に充分反映されるような日中活動を展開した。
- ・就労継続支援事業所として、新たに「働く」という視点を重要視し、工賃向上も視野に入れた支援体制を目指し、障害の特性に合わせた個別支援体制も充実させてきた。
- ・新型コロナウイルス感染症への対策として、清潔な環境を整え、手洗い、手指消毒、検温を行い、感染予防に努めたが、2月上旬から中旬にかけて、利用者9名（職員0）の感染者が出た。
- ・農場（ひくまのファーム）において、小麦、綿の栽培を行い、和光アグリパートナーとの連携で里芋の栽培、納品までを行った。里芋は令和4年度の販売価格145,060円に対して5年度は86,375円、小麦は令和4年度の収穫量が54kgに対して14kgであった。要因としては、里芋は種芋の植え付けが遅れたことと連作障害の影響、小麦は全体的に土が痩せていることと畝が低いところや霜の通り道となったところは育成が不良であった。対策として、毎年堆肥を入れて土壌改良を行って行く、連作対策で今年はさつま芋を栽培予定。
- ・毎月1回、虐待防止及び身体拘束に関する委員会を開催し、業務振り返りシートなどを参考にし、虐待の未然防止と身体拘束の適正化に努めた。

- ・1月以降毎月1回、感染症対策委員会を開催し、看護師も同席して感染症対策に関する話し合いの場が設けられるようになった。

2. 中期経営計画（別紙）

3. 施設利用状況

（1）生活介護（定員15名）

項 目		単位	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
施設利用状況	開所日数	日	265	253	258
	契約者数	人	14	15	16
	延べ人数	人	3,345	3,437	3,840
	1日平均	人	12.6	13.6	14.9
	利用率	%	84.2	90.6	99.2

・利用者の状況（令和6年3月31日現在） ※旧行政区にて表記

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計	
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区				性別	男
	2	0	2	5	3	0	0	0	0	2		
年齢別	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上	性別	男	女		
	0	3	6	4	1	0	0				10	4
障害支援区分別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定				
	1	7	6	0	0	0	4.6	0				
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複所持	手帳なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級		
	0	1	1	0	0	13	1	0	0	0	2	0

（2）【就労継続支援B型】（定員40名）

項 目		単位	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
施設利用状況	開所日数	日	265	253	258
	契約者数	人	47	47	47
	延べ人数	人	11,068	10,402	10,993
	1日平均	人	41.7	41.1	42.6
	利用率	%	104.4	102.8	106.5

・利用者の状況（令和6年3月31日現在） ※旧行政区にて表記

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計	
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区				性別	男
	17	10	8	7	2	1	0	2	0	0		
年齢別	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上	性別	男	女		
	0	12	14	11	6	1	3				28	19
障害支援区分別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定				
	1	4	13	11	7	0	3.5	11				
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複所持	手帳なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級		
	0	2	0	0	1	27	19	0	0	0	2	0

4. 就労支援事業

(1) 生活介護(スマイル)：全体

(単位：円)

事業	令和5年度収入	令和4年度収入	差額
自主作業	90,745	59,862	30,883
下請作業	205,959	217,186	△11,227
合計	296,704	277,048	19,656

①自主作業

(単位：円)

作業種目	令和5年度収入	令和4年度収入	差額
果樹園芸	81,340	37,220	44,120
染織縫製	9,405	22,642	△13,237
合計	90,745	59,862	30,883

(2) 就労継続支援B型：全体

(単位：円)

事業	令和5年度収入	令和4年度収入	差額
自主作業	2,240,381	2,192,004	48,377
下請作業	10,327,037	9,691,938	635,099
合計	12,567,418	11,883,942	683,476

①自主作業

(単位：円)

作業種目	令和5年度収入	令和4年度収入	差額
果樹園芸	216,309	251,527	△35,218
染織縫製	429,338	341,627	87,711
食品加工	1,594,734	1,598,850	△4,116
合計	2,240,381	2,192,004	48,377

②受託作業

(単位：円)

作業種目	令和5年度収入	令和4年度収入	差額
施設外就労	7,824,709	7,438,679	386,030
優先調達関連作業	421,300	421,300	0
下請作業	2,030,992	1,809,159	221,833
その他販売手数料	50,036	22,800	27,236
合計	10,327,037	9,691,938	635,099

5. 工賃実績

※令和6年度の報酬改定より、平均工賃の計算式が見直しされました。

平均工賃月額＝年間工賃支払総額÷（年間延べ利用者数÷年間開所日数）÷12カ月

(1) 生活介護事業：月別

(単位：円)

工賃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
総支給額	12,330	11,740	14,400	14,840	14,830	14,860	14,860	14,840	44,830	16,870	19,830	84,840	279,070	264,740
月額最高額	1,190	1,100	1,480	1,450	1,480	1,380	1,450	1,530	3,480	1,970	2,100	6,530	2,987	4,035
月額最低額	380	400	390	390	500	480	360	410	2,410	470	590	5,500	1,023	671
月平均額	978	931	1,142	1,177	1,176	1,179	1,179	1,177	5,557	1,338	1,573	6,733	1,849	1,441

※令和5年12月は年末手当（一律2,000円、計30,000円）を含む。

令和6年3月は年度末手当（一律5,000円、計70,000円）を含む。

※工賃支給対象者に、年度途中入所者、及び退所者、入院中の利用者も含む。

(2) 就労継続支援B型事業：月別

(単位：円)

工賃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
総支給額	799,750	829,720	829,750	799,820	999,720	899,770	949,670	949,790	1,304,820	929,820	799,750	1,126,780	11,219,160	10,167,550
月額最高額	43,640	45,840	43,860	43,250	55,210	45,220	49,930	50,560	68,560	49,390	42,170	58,280	49,659	45,658
月額最低額	3,570	3,100	4,440	3,640	3,340	4,780	2,930	5,330	8,310	3,270	2,790	6,070	4,297	2,541
月平均額	19,178	19,897	19,898	19,180	23,974	21,577	22,773	22,776	31,290	22,297	19,178	27,021	22,420	18,027

※令和5年12月年末手当（作業量に応じて、計405,000円）を含む。

令和6年3月年度末手当（作業量に応じて、計217,000円）を含む。

※工賃支給対象者に、年度途中入所者、及び退所者、入院中の利用者も含む。

6. 生活支援

(1) クラブ活動

クラブ名	講師	参加人員	備考
卓球クラブ	木村由美子、小林利到子	8名	毎月1回実施
アートクラブ	職員	5名	毎月1回実施
ダンスクラブ	ヒロタツダンスシティ	7名	毎月1回実施
アクティブクラブ	職員	7名	毎月1回実施
パラスポーツクラブ	職員	8名	毎月1回実施
美味しんぼクラブ	職員	7名	毎月1回実施
クラフトクラブ	職員	3名	毎月1回実施

- ・活動写真を利用して利用者さんが希望したクラブで楽しく活動した。卓球クラブ、パラスポーツクラブに関しては新型コロナウイルス感染防止のため参加を見合わせていたわかふじスポーツ大会に、3年ぶりに参加をした。今年度は新たにクラフトクラブを追加し、利用者さんの選択の幅を広げた。3月に行われた「感謝の集い」において、各クラブが1年間の活動発表を行った。

- ・生活介護（スマイル）では、引き続き新型コロナウイルスの影響等で愛護ギャラリー展などへの出展はできなかったが、アートクラブ、ウオーキングクラブ、音楽クラブなどの活動を継続して行った。

アートクラブでは季節ごとの絵を活動エリアの壁面に作成し、ウオーキングクラブでは近隣の大きな公園に行き散策をした。音楽クラブでは手作りマラカスや太鼓等を鳴らしながら、曲に合わせて思い思いの表現をした。

(2) 茶話会

毎月1回（毎月最終の平日）に、工賃分配及び誕生会、話し合い、レクリエーション等を行った。利用者の親睦及び利用者の意見交換の場として大切に位置づけてきた。その月の誕生者には、今年度はいもねこ工房の「ボールペン・クッキーセット」をプレゼントし、全員でお祝いをした。

秋の旅行は今年度も新型コロナウイルスの影響の為に中止となったが、代替えとして仕出しの昼食をみんなで一緒に食べ、午後はカラオケやドライブなどのレクリエーションを実施した。秋の旅行に関しては、ひくまのは人数も多いことから今後やり方等を検討していく。

7. 災害防止対策

学園内の事故防止、通園途中の交通事故防止についての指導をその都度実施した。

また火災、地震を想定した防災訓練を3ヶ月に1回実施し、合わせて防災設備の自主点検を行った。

実施日	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和5年 6/7 (水)	地震避難	利用者 49人 職員 17人 68人	14時00分	・利用者は職員の指示に従い机の下に潜り、その後ヘルメットを着用して落ち着いて避難場所に集合することができた。 ・施設外就労に出ている職員と連絡をとり、利用者の安否を確認した。 (所要時間5分30秒)
7/26 (水)	火災避難及び 消防署への通 報訓練	利用者 45人 職員 14人 59人	14時00分	・午後の作業中に厨房より出火の想定。初期消火担当職員は消火器の使用手順を確認し、消防署への通報を確実に行う。 ・放送機器の不備があり、各作業場にアナウンスが流れなかったが、利用者は職員の指示に従い落ち着いて避難ができた。(所要時間6分)
11/8 (水)	地震避難及び 避難時の約束 事の確認	利用者 46人 職員 17人 63人	11時00分	・利用者は机の下の一時的避難、次に二次避難所への移動がスムーズにできた。 ・その後、避難時の約束事として、下記の5つ合言葉をイラストを用いて確認をした。(所要時間4分30秒) ㊦おさない、㊧はしらない、㊨しゃべらない、㊩もどらない、㊪ちかづかない
令和6年 3/1 (金)	地震避難	利用者 48人 職員 18人 65人	11時00分	・机の下に潜る一時的避難、その後の避難場所への移動がスムーズに行うことができた、ヘルメットも全員被って避難することができた。 ・施設外就労に出ている職員と連絡をとり、安否を確認した。 (所要時間5分30秒)

8. 地域公益事業

(1) 生活困窮者就労訓練事業の実態

受け入れはなかったが、引き続き自立相談支援機関（生活自立相談支援センター「つながり」）と連携して受入れ準備をしてきた。

9. 福祉施設実習及び産業現場等における実習

福祉施設実習の受入れは2校、産業現場等における実習の受入れは2校であった。

月	来客者数		見学者数		実習者数		ボランティア数		備考
	令和5年度	令和4年度	令和5度	令和4度	令和5度	令和4度	令和5度	令和4度	
4	8	5	3	2			13	12	
5	22		1	7			15	15	
6	8	4		1	6	5	17	18	
7		3	2	2	11	2	38	13	
8	10	4	6	3			10	4	
9	8	4	3	2			17	5	
10	7	3	12	4	1	2	10	17	
11	7	1		3		4	10	15	
12	2	2			2	1	29	10	
1	13	8	1		1		7	10	
2	1	2					5	9	
3	14	13	1	1			7	7	
計	100	49	29	25	21	14	178	135	

ひくまの 中期経営計画（別紙）

視点	2023年度	評価	備考
利用者の視点	①魅力的で満足度の高い事業所 ②手厚い支援 ・専門性の高い支援 ③安心して取り組める作業 月平均工賃 14,000円（就労B） 利用者数 48名（就労B） 利用者数 17名（生活介護）	○ △ △ ○ △ △	①特別支援学校や相談支援事業所等からの評価は高いが、すべての利用者とその家族が満足していただけるように今後も努力をしていきたい。クラブ活動や土曜レクリエーションの充実も魅力のひとつとして確立する。 ②より高い専門性を身につけるため、今後も研修や自己研鑽が必要とされる。 ③様々な力量の利用者すべてが関わられるような作業を提案することを意識して行えた。下請け作業では、終了したものや新たに始めたもの等、見直しを行った。 ・2023年度平均工賃22,420円であった。2024年度も前年以上を最低ラインとし、23,000円を念頭に入れて取り組む。 ・就労Bは48名にする予定であったが、定員遵守の観点から今後も47名に見直す。 ・生活介護は2023年度中に1名退所し14名になった。2024年度の早い段階で定員の15名に戻す。
財務の視点	①経費削減、見直し ②感染症対策 ③サービス管理責任者研修1名受講（生活介護） 就労支援事業収入 11,500（千）（就労B） サービス等事業費収入 67,000（千）（就労B） 31,000（千）（生活介護） ※2022年度×評価に対しての結果 ・「サービス等事業収入」	△ △ × ○ ○ ×	①事業費、事務費、作業中の経費等、各職員が支出をよく考え相談をして行うようになった。 ②休園するまでには至らなかったが、2月に18名の感染者を出し、完全に収まるまでに約2週間を要した。当然サービス等事業収入にも影響が出た。 ③生活介護職員の受講予定ではあったが、職員の割合、内容を踏まえて就労Bの職員の受講を優先とする。（2025年度予定） ・就労支援事業収入は安定した作業が行われていることから、2022年度12,164,570円から2023年度は約13,000,000円に増収した。 ・サービス等事業収入は、特に生活介護がコロナ感染による一時的な出席率の低下と在籍者が14名に減ったことで減収となった。 73,100,000円（就労B） 29,500,000円（生活介護） ・就労Bは出席率の工場が増収につながったが、生活介護が感染症による出席率の低下と、加えて在籍者数が減ったこともあり、2023年度も計画通りにはいかなかった。
業務の視点	①防災訓練 ②トラック（アトラスかポンゴ）買い替え（助成金）（就労B） ③柿園の農作物が売りに反映（就労B） ※小麦の栽培場所による ④ネット販売準備 ⑤職員の業務スリム化 ※2022年度×評価に対しての結果 「ハイエース（トラック）の買い替え」 「自主製品のネット販売の可能性を探る」	○ × × × ○	①防災訓練は年間4回の訓練を予定通り実施した。防犯訓練に関しては未実施。 ②トラック買い替えの前にハイエースを優先する。2024年度助成金申請、2025年度購入予定。 ③ひくまのファームで里芋、綿、小麦の栽培を行うが、特に販売目的の里芋の生育が悪く、売りに反映しなかった。 ④ネット販売に関しては、現在の生産ペースを上回らなければならない可能性があり、現時点では見直したいと考える。 ⑤タイムカードが導入されサービス残業を行わない取り組みをしている。合わせて有休消化率の向上や時間外手当の細かい記録も行っている。 ・ハイエースを助成金で購入するかリースにするかの結論が出たので、2024年度中に申請、2025年度購入を目指す。トラックに関しては次の段階で考えている。 ・ネット販売に関しては、現段階では実行する予定はない。
人材の視点	①利用者支援のスキルアップ ・職員（内部）研修、外部研修の充実 ・毎月のケース会議（生活介護） ・サービス管理責任者研修1名受講（生活介護）	△	①利用者支援で職員全体がスキルアップできるよう、今後も努力が必要。研修だけではなく、日々の職員同士の意見交換も重要と考える。 ・内部研修は「サボカレ」を活用し、年2回の法人内研修を予定通り行った。外部研修はオンライン（Zoom）だけではなく、対面での研修にも参加できるようになった。 ・生活介護では、月に1回のケース会議を継続して現場の支援に生かせるよう努めた。また就労Bにおいても会議時間を短縮することで毎月のケース会議を行うことが可能になった。利用者支援に関するより内容のある話し合いになるようにしていきたい。 ・2022年度に就労Bの職員、2023年度に生活介護の職員がサービス管理責任者研修受講予定であったが、計画通り行うことができなかった。

Ⅲ み な み (就労継続支援B型事業所)

1. 施設運営

- ・事業所が日々明るく楽しい生活の場でなくてはならないという観点を重視し個別支援計画に基づいて本人の希望や家族の思いが充分反映されるよう一人一人にきめ細やかな支援を心がけて活動を行なった。
- ・作業を通じて働くことを経験し頑張ったことを工賃に反映することで働く喜びを提供した。
- ・療育的な支援や余暇活動の充実・日常生活動作の支援等、総合的な支援を行なった。
- ・赤い羽根共同募金会の助成により農機具庫を敷地内に設置した。耕運機や防災用品の備蓄として使用している。
- ・様々な感染症に対し、手洗いや消毒などの感染症対策を努めたが8月に新型コロナウイルスにより利用者7名(職員1名)が感染となった。
- ・個々の利用者が、他機関の障害福祉サービスを利用する機会が増えたことも、出席率の低下(訓練等給付費の減額)の要因となった。

2. 中期経営計画 (別紙)

3. 施設利用状況(定員25名)

項 目		単位	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
施設利用状況	開所日数	日	265	258	258
	契約者数	人	26(退所1名)	27(退所2名)	29(退所0名)
	延べ人数	人	6,318	6,218	6,580
	1日平均	人	23.9	24.1	26.3
	利用率	%	95.4	96.4	105.2

・利用者の状況(令和6年3月31日現在)

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計	
	中央区					浜名区	天竜区				性別	男
	26					0	0	0	0	0		
年 齢 別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別	男	女	26	
	0	10	6	7	1	1	1					20
障害支援 区 分 別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定				
	6	6	8	3	2	0	4.4	1				
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複所持	手帳なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級		
	3	1	0	0	1	21	5	0	2	1		

4. 就労支援事業：全体

(単位：円)

事 業	令和5年度収入	令和4年度収入	差 額
自主作業	710,546	834,440	△123,894
下請作業	4,194,033	4,227,932	△ 33,899

合 計	4,904,579	5,062,372	△157,793
-----	-----------	-----------	----------

①自主作業 (単位：円)

作業種目	令和5年度収入	令和4年度収入	差 額
果 樹 園 芸	63,770	117,074	△53,304
染 織 縫 製	646,776	717,366	△70,590
合 計	710,546	834,440	△123,894

②受託作業 (単位：円)

作業種目	令和5年度収入	令和4年度収入	差 額
公園環境整備	4,194,033	4,227,932	△33,899
清 掃 作 業			
下 請 作 業			
合 計	4,194,033	4,227,932	△33,899

5. 工賃実績

※令和6年度の報酬改定により平均工賃月額算定方法の見直しにより平均利用者数を用いた新しい算定式となった。
 平均工賃月額＝年間工賃支払総額÷（年間延べ利用者数÷年間開所日数）÷12か月

(単位：円)

工 賃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
総支給額	356,850	354,640	354,790	354,690	360,730	368,090	352,720	354,790	433,710	353,770	353,710	503,730	4,502,220	4,668,210
月額最高額	34,270	33,430	34,410	34,550	31,570	37,270	37,980	36,360	35,630	33,530	32,850	39,940	35,152	35,340
月額最低額	2,530	2,030	2,160	1,000	1,000	2,510	2,020	2,630	5,420	1,000	1,000	7,410	2,559	2,062
平均工賃月額	14,994	14,901	14,907	14,903	15,157	15,466	14,820	14,907	18,223	14,862	14,862	21,165	15,737	13,893

※令和5年12月の総支給額は賞与（一律3,000円、¥81,000）を含む。

令和6年3月の総支給額は賞与（一律5,000円、¥130,000）を含む。

※工賃支給対象者に、年度途中退所者、入院中の利用者も含む。

6. 生活支援

(1) クラブ活動

書道・イングリッシュ・レクリエーションのクラブ活動の講師を招いて実施した。また、希望により絵画や手工芸クラブを行う。絵画や書道については、地域や企業で開催されるイベントに出展する等、発表できる場を提供した。

(2) 茶話会

毎月1回茶話会を行い、工賃分配及び誕生会、話し合い、レクリエーション等を行った。利用者の親睦及び意見交換の場として大切に位置づけ、その月の誕生者には就労継続支援 B 型事業所なぎさ作業所（浜名学園）の花鉢のプレゼントを渡し、また皆勤者にはその努力をたたえた。

社会体験旅行は今年度もコロナ感染症対策として中止した。代替として9月の茶話会でお楽しみ食事会と浜北へドライブを行なった。

(3) 社会活動

利用者が楽しく豊かな日常生活を送ることができるように、併設している販売所で地域の方との触れ合いを大切にするなど地域社会の活動等に積極的にとりくんだ。

(4) 健康管理

- ・年1回の聖隷予防検診センターによる健康診断を実施した。
- ・月1回の体重血圧測定を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症防止対策として、これまでのうがい手洗い、手指の消毒以外に換気や室内へのアルコール消毒を強化し、万全の体制を整えて支援した。

7. 災害防止対策

実施日	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和5年 4/8 (土)	地震 避難訓練	利用者 21名 職員 3名 24名	10時00分	地震発生を想定。机の下にもぐり、職員による安全確認後、ヘルメットを着用し、屋外へ避難した。
5/27 (土)	不審者 防犯訓練	利用者 20名 職員 3名 23名	10時00分	不審者が建物内に侵入したことを想定で行った。利用者を避難させるとともに、支援者が椅子を使い不審者を確保。警察に通報。(模擬)
11/1 (水)	地震・火災 避難訓練	利用者 25名 職員 5名 30名	11時00分	地震発生・地震による火災・大津波警報発令を想定。屋外へ避難した際には、人数・怪我の有無も確認した。
12/9 (土)	地震 避難訓練	利用者 22名 職員 3名 25名	10時00分	地震発生を想定。安全が確認できるまで、机の下にもぐった。ヘルメットを着用し、屋外へ避難した。
令和6年 1/6 (土)	地震・火災 避難訓練	利用者 23名 職員 3名 26名	10時00分	地震発生・地震による火災発生を想定。消防署への通報、消火器等による初期消火(模擬)。避難指示も出し、屋外へ避難した。
3/9 (土)	地震 避難訓練	利用者 21名 職員 4名 25名	10時00分	地震発生を想定。机の下にもぐり、職員による安全を確認後、ヘルメットを着用し、屋外へ避難した。

8. 地域公益事業

(1) 生活困窮者就労訓練事業の実態

自立支援機関(生活自立相談支援センター「つながり」)の斡旋に応じて、就労に困難を抱える生活困窮者の受け入れを継続しているが、伺いや受け入れはなかった。

9. 福祉施設実習及び産業現場等における実習

職場体験実習の受入れは1校あった。

月	来客者数		見学者数		実習者数		ボランティア数		備考
	令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度	
4	8	3	1	2			6	10	
5	4	2	4				3	10	
6	14	2				2	27	4	
7	7	5					20	9	
8	6	5	13	8		1	10	6	
9	8	4	2				20	0	
10	5	16		1			30	13	
11	11	10			1		30	9	
12	5	7	2	1		1	17	11	
1	5	6		2			10	2	
2		7					24	12	
3	8	8					19	13	
計	81	75	22	13	1	4	216	99	

視点	2023年度	評価	備 考
利用者の視点	①利用者数30名(125%)の確保	△	①令和6年2月1名が退所となり現在27名から26名となる。定員遵守の観点から定員25名とし利用者数は現状のままとする。
	・将来の定員増に向けて実習の受け入れや入所希望者の状況を把握する	○	・相談支援事業所や特別支援学校から入所の希望の問い合わせがあるが、定員の現状を説明し理解していただいている。
	・利用者の意思決定支援の尊重 (目標にマッチした作業の提供)	○	特別支援学校などの職場実習は就労継続支援B型を理解してもらうために積極的に取り入れた。(1名利用する。)
	・作業環境を整え作業内容の充実 作業選択の幅を増やす	○	・利用者一人ひとりの状況を把握し、現状にあった日中活動を提供した。高齢となる利用者に関しては、作業後の体の不調の訴えが増え作業の選択を慎重に進めている。安心して活動に参加ができるよう、作業内容を考慮する必要がある。
	・利用者の高齢者や重度化によるサービスの多様化への対応	○	・相談支援事業所や家庭と連絡を取り合い、その方の今後の方針や状況を話し合う機会を設けた。
財務の視点	①平均工賃1万円の確保	○	①令和5年度の平均工賃は15,737円であり重度障害者支援加算を加えて17,737円であった。(令和4年度13,893円:報酬改定により平均工賃月額の見直しにより障害特性等により、利用日数が少ない方を多く受け入れることを踏まえ平均利用者数を用いた新しい算定式となった) ・年間を通して集団で新型コロナウイルス感染症や感染症胃腸炎により欠席することがあり利用率が95.4%(令和4年度96.4%)だった。 ・利用者一人ひとりのニーズに合った関わり方や寄り添うことで安心安全な場所を提供する工夫をした。(利用者の中で昨年まで出席日数が少なかった方が、強みを活かした作業を行うと毎日出席するようになり嬉しく思う。) ②自主製品や日用品で使う材料をや資材を地域に呼びかけ、捨てるものを提供してもらうことで経費を抑えることができた。
	・報酬単価の安定した収入と順調な返済計画	○	
	・利用率100%以上を目指す	△	
	②経費見直し	○	
	・利用者の高齢者や重度化によるサービスの多様化への対応	○	
業務の視点	①職員業務のスリム化	△	①職員の退職があり、職員間で分担し協力しあい、業務を円滑に行えるよう努力する。(現在、職員2名を募集にかけている状況) ②防災・感染症のBCP(事業継続計画)を作成し、職員で確認する。 ・虐待防止マネジャーを中心に職員の振り返りチェックリストを活用し、必要に応じて面談をすることで虐待防止につなげた。 ・避難訓練は年間6回行う。障害特性により集団行動ができない方の支援が今後の課題となった。 ・地域の行事にはまだ参加はしていないが、自治会費や祭りの寄付などを支払う。移転してから5年が経ち、散歩の方や施設の周りの畑の方々が声をかけてくれるようになった。少しずつ、施設を理解して頂くよう、アピールしていく。 ③自主製品でや畑の仕事を細分化することで関わられる利用者数が増えた。 ・利用者の強みを活かした製品を作成し販売とつなげる。
	②リスク対応マニュアル化(支援・防災関係・感染症) ・プロジェクトチームを組んでマニュアルを作成する	△	
	・随時、避難訓練を行う	○	
	・共生社会をめざして地域での行事に積極的に参加する	△	
	③自主製品のブランド化 ・販売所からの地域へのアピールと授産事業の周知	○	
	・様々な作業に対し、関わる利用者を増やす	○	
	・講師を招いて製品技術の向上	○	
人材の視点	①基本理念の共有 利用者支援スキルアップ ・職員研修・自主研修・外部研修 (研修を通して従事者の意識改革)	△	①利用者支援のためのスキルアップは今後も努力が必要と思われる。もう少しサポーターズカレッジを利用するなど、日々の業務の中でも学べる時間を確保していきたい。 ・農作業で使う道具の講習など、職員が学べる機会が必要。また、自主製品の織りや縫製などはできる職員に限られていたため、業務の見直しが必要と感じた。 ・年2回の法人の職員研修の中で虐待防止や利用者の意思決定について学ぶ。 ②自主製品を作成しするにあたり、利用者や職員が相談し話し合うことで一つずつゆっくり丁寧にと完成している。
	・人材育成のための時間の確保	△	
	・虐待研修に参加	○	
	②自主製品開発グループの立ち上げ・ 技術を高め、付加価値の高い製品を目指す	△	

IV まつかさ（就労継続支援B型事業所）

1. 施設運営

まつかさは、就労継続支援B型事業所として、「働く」という視点を重視し、就労の機会を提供することを心がけてきた。施設外での作業を通して、多くの利用者さんが施設外就労等を経験することになり、働く力の向上につながった。

本人の希望や家族の思いが十分反映されるよう、面談を随時実施し、きめ細かな支援を心がけてきた。また通勤途中の交通安全と災害時の安全についても配慮し、その確保を行った。

令和2年度から約4年間続いたコロナ禍も、昨年5月からは5類へ移行したことで、事業所活動は少しずつ本来の活気を取り戻しつつある。ただし、この3月には、事業所内で新型コロナウイルス感染症の感染拡大（利用者8名、職員1名）があり、日頃の感染対策や初期対応の大切さを経験した。

2. 中期経営計画（別紙）

3. 施設利用状況（定員20名）

（令和6年4月1日現在）

項 目		単位	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
施設利用状況	開所日数	日	265	258	258
	契約者数	人	20	20	20
	延べ人数	人	4,897	4,641	4,584
	1日平均	人	18.5	18.0	17.8
	利用率	%	92.4	89.9	88.8

・利用者の状況（令和6年4月1日現在）

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計		
	中央区					浜名区	天竜区				性別	男	女
年 齢 別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別	男	女			
	1	7	8	3	0	0	1				14	6	
障害支援 区 分 別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援 区分	未判定					
	0	0	6	6	1	0	3.4						
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者 保健福祉手帳			重複 所持	手帳 なし	
	1級	2級	3級	4級	5級 以上	A	B	1級	2級	3級			0
	0	0	0	0	0	11	9	0	0	0	0	0	0

4. 就労支援事業：全体

（単位：円）

事 業	令和5年度収入	令和4年度収入	差 額
自主作業	626,251	581,804	44,447
受託作業	2,485,924	2,467,935	17,989
合 計	3,112,175	3,049,739	62,436

①自主作業

(単位:円)

作業種目	令和5年度収入	令和4年度収入	差 額
果 樹 園 芸	8,700	12,150	-3,450
織 染 縫 製	617,551	569,654	47,897
合 計	626,251	581,804	44,447

②受託作業

(単位:円)

作業種目	令和5年度収入	令和4年度収入	差 額
農 場 作 業	2,485,924	2,467,935	17,989
清 掃 作 業			
下 請 作 業			
合 計	2,485,924	2,467,935	17,989

5. 工賃実績

(単位:円)

工 賃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
総支給額	179,880	179,920	199,890	199,890	199,890	199,910	199,930	229,890	329,910	199,900	219,920	404,900	2,743,830	2,764,060
月額最高額	13,940	12,720	15,040	13,900	14,730	14,190	13,860	16,550	22,410	14,630	15,650	28,970	16,383	16,975
月額最低額	3,000	3,000	3,000	4,810	5,240	4,550	4,790	5,650	6,000	4,650	5,270	12,360	5,193	4,612
平均工賃月額	8,994	8,996	9,995	9,995	9,995	9,996	9,997	11,495	16,496	9,995	10,996	20,245	12,373	11,614

※令和5年12月は賞与(一律5,000円、¥100,000)、令和6年3月は年度末手当(一律5,000円、¥100,000)を含む。

※平均工賃月額は、本年度より総支給額÷前年度平均利用者数÷12月で計算。

6. 生活支援

(1) 茶話会

毎月月末には、誕生月を迎えた方にはプレゼントを渡しお祝いました。

(2) 社会活動

利用者が楽しく豊かに毎日を送ることができるように、特に半日の土曜日を利用して社会資源の見学やレクリエーション、ボランティアなどの活動を予定したが、コロナ禍後の感染拡大もあり、計画通りの実施ができなかった。恒例の社会体験旅行は継続して中止となってしまったが、代わりに11月には大河ドラマ館の鑑賞とレストランでの食事会を合わせて実施した。また、同じ11月には、4年ぶりに旧北小学校の体育館を貸し切って、法人全体でのパラスポーツ大会を実施し、良い交流の時を持った。

7. 災害防止対策 及び 交通安全・防犯講習

実施日	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和5年 5/11 (木)	防災訓練 地震・避難	利用者 18名 職員 5名 23名	12時50分	5月になって、5日には石川県珠洲市、本日早朝に千葉県木更津市で大きな地震が起こったことを踏まえ、身を守る訓練になるように話した。施設内の棚は、つっぱり棒や綱で固定していることを確認した。
8/16 (金)	交通安全 講習	利用者 15名 職員 5名 20名	9時～ 11時	浜松市中央警察署交通安全指導課の協力を得て講習を実施。施設前の道路へ出る際の左右確認と坂下の中沢西交差点（飛龍街道）の横断歩道を実際に横断した。特に、道路への飛び出しが課題となる利用者には、危険回避のために確認行動を推奨した。
8/18 (水)	防犯講習	利用者 16名 職員 5名 21名	9時～ 10時	浜松市中央警察署生活安全課の協力を得て講習を実施。不審者、不法侵入者への対応と、不審物を置かれた時の対処を学んだ。
11/1 (水)	防災訓練 地震・火災 ・避難	利用者 19名 職員 4名 23名	12時45分	訓練音源を使って地震の発生を知らせて訓練開始。身の安全を守る行動から避難行動、その後発生した火災の消火訓練までを実施。訓練後には、非常時の食料や水、発電機、コンロなど、防災器具庫内の確認を行った。
	情報伝達 訓練			浜松市障害福祉課へ指定の書式を用いて、当日にメール回答を行った。
令和6年 2/22 (水)	避難訓練 地震・避難	利用者 19名 職員 5名 24名	9時15分	訓練音源を使って訓練を行った。昼食時には、保管されているアルファ化米の非常食に水を加え、60分後に試食を行うなど、避難所生活の疑似体験を行った。
3/25 (月)	避難訓練 火災・避難	利用者 19名 職員 5名 24名	12時45分	能登半島地震の動画を視聴した。大きな揺れの後に津波が襲って来ることや火災の発生の危険などを学んだ。

8. 福祉施設実習及び産業現場等における実習

実習の受入れは、浜松みをつくし特別支援学校とひくまのからの主任者交流研修であった。

月	来客者数		見学者数		実習者数		ボランティア数		備考
	令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度	
4	20	23		2			10	4	
5	15	23	2	3			2	5	
6	16	45				18	5	4	
7	13	18	2	5			3	4	
8	26	35	2			2	8	2	
9	24	11	2	3			4	1	
10	20	21	14	18			6	10	
11	14	27		2	1	6	9	3	
12	22	22	1	2	1		14	6	
1	21	15	1		3		3	3	
2	24	8					10	3	
3	22	21	2				5	4	
計	237	269	26	35	5	26	79	49	

まつかさ中期経営計画（別紙）

視点	2023年度の行動計画	評価	考察 及び 次年度の予定
利用者の視点	① 利用者工賃は平均月額で14,500円が目標。 ② 赤い羽根共同募金会に助成申請を実施する。	× ○	①4年間のコロナ禍から通常の生活に戻りつつある中、新しい受託先の開拓や現在の関係企業との関係強化が十分に図れなかった。平均工賃月額（新計算方法）は、12,373円と前年11,614円から760円程度上昇はしたものの、目標には大きく及ばなかった。今後、受託作業の獲得と自主製品の販売を強化し、次年度は計画通りの15,000円を目指す。 ②本年度は、赤い羽根共同募金会に次の3項目の助成希望の申請を行い、助成が決定し、次年度中に工事を実施予定。内容は、a.敷地南境界に防犯用のフェンスの設置 b.工場の照明器具をLED化 c.1階作業場の2ヶ所に多目的掲示板の設置。
財務の視点	① 定員遵守の方針に従い、利用者数は、定員一杯の20名を極力維持する。利用率は90%以上を目指す。 ② 新型コロナウイルス感染症対策を継続	○ ○	①浜松市からの通知「利用定員の遵守について」により、在籍する利用者数を定員20名以下に守る必要が示された。その中で、昨年度は在籍者数20名が維持され、利用率については、1日平均18名の90%以上を目指し92.4%と目標を上回った。 ②昨年5月に5類へ移行してからも、従来の感染対策を継続した。3月には、事業所内で感染拡大があり、利用者8名と職員1名の感染者があり、初期対応の大切さを痛感した。また、感染拡大の心配から、在宅就労の希望がある利用者には、所轄の関係機関と調整して在宅支援のサービスを実施した。
業務の視点	① 業務の分掌化、記録の見直し等を行う。 ② PP製品の新品を開発する。 大河ドラマ館の「出世の街家康SHOP」への出品を目指し手続きを進め、ミニチュア製品の販促に努める。	△ ○ × △	①業務の分掌化は例年通りに実施できた。必要書類の記録方法の見直しについては、今後の課題として継続していく。 ②新たにミニチュア製品からの派生したアクセサリ製品を開発し、市内の知久屋店舗、たいが薬局、まんまカフェグース、しんはま、ネットヨタ静浜の販売スペースで販売、加えて温浴施設 OYUGIWA 市野店では7月から12月までの延べ5回の販売会を実施した。 家康SHOPへの出品を試みたが、商品力が疑問視され、残念ながら出品は実現できなかった。今後、商品力を高め、ミニチュア製品の販促に努めたい。
人材の視点	① スタッフの資質向上 ・オンライン研修の実施 ・外部研修への参加 ② 職員の交流実習を行う。 ③ ボランティアを受け入れる。延べ80人が目標	○ ○ ○	①コロナ禍にあっても、オンライン型研修であるサボカレを使うことで必要な研修が図れた。小グループ研修や法人全体での職員研修会にて、テーマ別コンテンツを活用して研修を図った。次年度も契約を継続し、多くの研修機会を捉えたい。 次年度には、職員1名がサービス管理責任者初任者研修・基礎研修を受講し、今後につなげる。 ②今年度は、テーマ別研修を事業所単位で行った。次年度は、3事業所間での交流実習ができるように計画したい。 ③従来の資源物回収や環境整備に協力者に加え、パラスポーツ大会での学生ボランティアや新たにアコースティックギター奏者によりクリスマスコンサートが開催できた。延べ79名と、ほぼ目標近くとなり、多くの協力を得ることができた。次年度は延べ100名を目指す。

V やしま (共同生活援助：グループホーム)

1. 施設運営

- 共同生活援助事業

個別支援計画に基づいて利用者一人一人の希望や思いに寄り添い、心身共に安定した日々の生活の充実を図った。

また、社会的マナーやルールを身につけ、自立した生活に向けて総合的な支援を行なった。

- 短期入所事業

家庭のレスパイト支援を優先し、自宅での生活が一時困難になった利用者が快適に過ごせるよう、食事の提供、入浴支援等を行った。また共同生活援助事業の利用者と協調性を持ちながら利用者個々の要望に沿った支援を行い、やしまで過ごす時間が充実できるよう支援した。

2. 中期経営計画 (別紙)

3. 施設利用状況

(1) 共同生活援助 (令和5年定員7名)

項目		単位	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
施設利用状況	開所日数	日	366	365	365
	契約者数	人	7	7	7
	延べ人数	人	2,383	2,305	2,404
	1日平均	人	6.5	6.4	6.5
利用率	%	93.0	90.2	94	

・利用者の状況 (令和6年3月31日現在)

地域別	浜松市							磐田市	掛川市	湖西市	合計			
	中央区					浜名区	天竜区				性別	男	女	7
	7					0	0	0	0	0				
年齢別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別	男	女	7	0		
		1	2	2	1	1	0							
障害支援 区分別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定						
	0	2	3	2	0	0	4.0	0						
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複所持	手帳なし		
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級			0	0
	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0		

(2) 短期入所 (定員1名) (令和2年8月1日より事業開始)

項目		単位	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績	令和2年度 8月1日～ 実績
施設利用状況	開所日数	日	366	365	365	243
	契約者数	人	21	19	19	19
	延べ人数	人	571	532	595	306
	稼働日数	日	334	316	342	162
	稼働率	%	91.2	86.6	93.6	67

・契約者の状況 (令和6年3月31日現在)

地域別	浜松市							磐田市	掛川市	湖西市	合計			
	中央区					浜北区	天竜区				男	女	重複所持	手帳なし
	19					0	0							
年齢別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別						
	0	11	4	5	1	0	0		21	0				
障害支援 区分別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平成以前区分	未判定						
	8	3	5	3	2	0	4.57	0						
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複 所持	手帳 なし		
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級				
	1	0	0	0	0	19	2	0	0	1	2	0		

4. 支援内容

(1) 日常生活動作支援

食事、排泄、入浴、洗濯、清掃、身だしなみを整える等、手際の良い身辺処理ができるよう支援した。

(2) 余暇活動の支援

寮内での活動を中心にレクリエーション、身体活動、創作活動等、ご本人の希望をうかがいながら、出来る限りの支援を行った。年度後半には少しずつ外出の機会を設けた。

〈やしま支援活動〉

活動名	実施回数	活動内容
年中行事	9回	入所利用者の誕生日祝い、クリスマス会、豆まき他
地域の行事参加	2回	大人見町の夏祭を見学した。湖東町の竹細工教室に参加した。
販売会见学	1回	四季彩堂販売会
買い物支援	月1~2回	随時買い物に同行した。
散歩・園芸	毎週末	近隣の散歩、生け花、花壇整備
外出支援	12回	5名の散髪を支援した。
身体活動・レクリエーション	週1回	体操教室の講師による指導で活動を楽しんだ。

共同生活をする仲間として、お互いを思いやる気持ちを大事にし、仲間意識を持てるよう、役割を持って参加し楽しめるよう支援を行った。

(3) 健康管理

内科・外科・歯科・皮膚科・眼科への通院の支援を行った。また、定期的に歯みがき支援や服薬管理を行った。

朝夕の検温、うがい手洗い及び手指の消毒の徹底等、感染症防止対策を行なった。

(4) 菜園管理

野菜の栽培や収穫を体験し、料理に活用する等して菜園での活動を楽しんだ。

5. 災害防止対策

実施日	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和5年 4/29 (土)	地震火災 避難訓練	利用者 8名 職員 2名 10名	7時30分	東海地震発生を想定。地震発生の場合を 行いテーブル下に避難。揺れが収まってから ヘルメット着用、屋外へ避難。
5/15 (月)	地震火災・ 消火避訓練	利用者 7名 職員 4名 11名	7時20分	地震のあと二階居室から火災発生。館内放 送で地震及び火災の発生を伝え、避難を呼 びかける。行動が遅れる利用者には、職員 が居室へ行き直接非難指導。ヘルメット着 用、消火器を使用しての初期消火模擬訓練。
9/23 (土)	地震火災 避難訓練	利用者 7名 職員 2名 9名	6時30分	地震発生・火災発生を想定。地震発生後 机の下にもぐるよう呼びかけ。地震後に 火災が発生したことも想定し、屋外へ避 難。
10/28 (日)	火災・消火 避難訓練	利用者 8名 職員 2名 10名	6時10分	二階居室より火災発生を想定。全館放送に て火災の発生を伝え、一階リビングに集ま るよう声をかける。全員集合後に屋外へ避 難。消防への通報（模擬）、初期消火（模 擬）を行った。10/30日には業者による消 防設備点検も実施。
令和6年 2/10 (土)	救急法確 認・地震避 難訓練	利用者 7名 職員 3名 10名	18時00分	地震発生後、支援員の声かけのもとに一階 集合。ヘルメット着用の上駐車場へ移動、 全員の所在を確認。一連の訓練終了後、AED による救急法について現物を見ながら確認 し、利用者の意識の向上につなげた。
3/3 (日)	地震避難 訓練及び 非常食勉 強会	利用者 7名 職員 3名 10名	11時00分	地震発生後、支援員の声かけのもとに一階 集合。ヘルメット着用の上駐車場へ移動、 全員の所在を確認。その後防災備品のアル ファ米を湯で戻し試食。

6. その他

- ・浜松市の実地指導により、運営について指導を受けた。
- ・6年毎の指定更新手続きを行なった。
- ・個別支援計画について、本人との面談を随時行う。また、3ヶ月毎に支援会議を行う。
- ・虐待防止についてチェックリストを活用した。
- ・感染症防止対策として、うがい手洗い、手指の消毒・換気を行なった。

やしま・あかね 中期経営計画 (別紙)

視点		2023年度	評価	備考
利用者の視点	やしま・あかね	グループホームという生活の場所で一人ひとりの思いをしっかりと受けとめ、ゆったりとした生活環境を作り上げていく。	△	一人ひとりの希望にそう環境を整えることができる限り支援した。
		高齢化に伴う対応について体制を整える。	○	65歳以降の利用について勉強会を行うことができた。
		・バランスのとれた食事の提供 ・歩行困難者への環境を整える。	○	・利用者の希望も取り入れながら、バランスの取れた食事の提供ができた。 ・利用者に合わせて減塩や刻み食を提供した。
		個々の健康状態や日常生活動作、QOLの変化の把握	△	面談をして利用者の思いに寄り添う支援をした。コロナ罹患者も出たため常に健康状態に配慮して過ごした。
		利用者のニーズに合わせて休日の余暇の充実を図る。	×	コロナ禍もあり余暇活動は最低限にとどめた。
		利用者のニーズをつかみ入所の待機者を確保する。	△	利用申込1名を把握するにとどまっている。
財務の視点	やしま	定員7名を確保し、運営の安定化を図る。	△	8月～9月にかけてコロナ罹患者が出て、レッドゾーンでの生活を余儀なくされ、自宅待機も依頼した。
		償還財源の確保	△	運営状況はきびしかったが滞ることなく償還できた。
		ショートステイ事業の継続	△	利用率アップにつなげることができた。
		定員7名、短期入所1名の利用を常時確保し、運営の安定化を図る。	△	コロナ禍ではキャンセルを依頼することになった。
	やしまあかね	数値目標設定とモニタリング	△	計画に沿って利用率など数値を確認した。
	あかね	利用者のニーズをつかみ入所の待機者を確保する。	△	入所希望者について常に状況を把握した。
		改修にむけての貯蓄（設備費・エアコン等修理・浴室・トイレ等の改修）	○	次年度に向けて繰越金の増へつなげていく。
業務の視点	あやしあかね	他のサービス利用を柔軟に取り入れ、日中活動の事業所、相談支援事業所や移動支援、事業所等と連携を図り、個々の障害特性や支援方法を共有しながら支援する。	△	・5月には5類に移行したコロナではあったが外部の出入りや外出については慎重に対応した。 ・感染に気を付けて移動支援の利用・外出等を行なった。（あかね）
		防犯、防災対策の充実	○	防犯マニュアルに沿って点検箇所の情報共有し避難訓練を定期的に行なった。
		安心安全な施設作り	○	点検チェックシートを活用し安全に対する意識を持って取り組んだ。
	あかね	人件費、研修費の確保	△	他の感染症が発生し、外部の研修への取り組みができなかった。
		・労働環境の整備 ・業務の見直し点検（効率化）、職場の充実	△	有給制度を取り入れ労働環境の整備に取り組んだ。
人材の視点	やしまあかね	施設長とサービス管理責任者の体制の確立	△	今後に向けて具体案を出していく。
		組織の見直し（2つのグループホームを総括する組織作り）	△	今後に向けて具体案を出していく。
		現支援員さんの高齢化に伴う退職者の補充	△	70歳以上の方3名の退職に伴い新たに3名の採用をした。
		チェックシートの活用	○	虐待の内容を盛り込んだチェックシートに変更活用した。
		人材育成のための時間の確保	△	合同支援会議及びサポーターズカレッジ視聴などを行い、資質の向上に努めた。

VI あかね（共同生活援助：グループホーム、短期入所：ショートステイ）

1. 施設運営

・共同生活援助事業

知的な障害者に対して「住まいの場」を提供し、自立に向けた必要な技能や地域の中で生活していく為のルール等、総合的支援を行った。

また、利用者さんの思いによりそい、より個別化した支援が行えるよう努力した。相談支援事業所とも密接な連携を取りながら、利用者の意思決定を大切に生活の充実を図った。

・短期入所事業

家庭のレスパイト支援を優先し、自宅での生活が一時困難になった利用者が快適に過ごせるよう、食事の提供、入浴支援等を行った。また共同生活援助事業の利用者と気持ちよく過ごせるようコミュニケーションの疎通を図り、滞在する利用者個々の要望に沿った支援を行った。

2. 中期経営計画（別紙）

3. 施設利用状況

（1）共同生活援助（定員7名）

項 目		単位	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
施設利用状況	開所日数	日	365	365	365
	契約者数	人	7	7	7
	延べ人数	人	2,452	2,372	2,440
	1日平均	人	6.6	6.5	6.6
	利 用 率	%	95.7	92.8	95.5

・利用者の状況（令和6年3月31日現在） ※旧行政区で表記

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計	
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区				男	女
	1	0	1	0	4	1	0	0	0	0		
年 齢 別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別				
	0	1	2	2	0	1	1		0	7		
障害支援 区 分 別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定				
	0	3	3	1	0	0	4.2	0				
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複 所持	手帳 なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級		
	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0

（2）短期入所（定員1名）

項 目		単位	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
施設利用状況	開所日数	日	366	365	365
	延べ利用者数	人	382	368	450
	稼働日数	人	299	282	328
	稼働率	%	81.6	77.3	89.9

・利用者の状況（令和6年3月現在） ※旧行政区で表記

地域別	浜松市							磐田市	掛川市	湖西市	合計	
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区					
	2	4	4	2	2	0	0	0	0	1	利用実人員 15	
年齢別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別	男	女		
	0	3	8	2	1	1	0		7	8		
障害支援 区分別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定				
	0	3	6	5	1	0	3.5	0				
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複 所持	手帳 なし
	1級	2級	3級	4級	5級以下	A	B	1級	2級	3級		
	0	0	0	0	0	12	3					

4. 支援内容

(1) 日常生活動作支援

食事、排泄、入浴、洗濯、清掃、身だしなみを整える等、手際の良い身辺処理ができるよう支援した。また、夜間の不眠者に対し、医療面の対応と同時に本人の気持ちに寄り添う支援を行った。

(2) 余暇活動の支援

休日には、市内の公園の散策、買い物支援等を行い、余暇時間の充実を図った。コロナ禍の中、地域で開催される行事の中止が多い中、法人のイベント等の外出の際のマナーやルールについて支援した。室内では料理やレクリエーション等の楽しみをもった活動を支援した。

〈あかね支援活動〉

活動名	実施回数	活動内容
ドライブと会食	2回	市内をドライブしてお弁当を摂って会食
市内散策	6回	浜松市動物園、図書館、フルーツパークイルミネーション、都田運動公園、万葉の森公園、河津桜見学等。
年中行事	11回	入所利用者の誕生祝い、クリスマス会 他。
地域の行事参加	1回	百園自治会夏祭り、防災訓練。
販売会見学	1回	四季彩堂販売会見学。
移動支援	27回	移動支援サービスを利用し、外出する(1名)
買い物支援	月5～6回	随時買い物に同行する。
散歩・園芸	毎週末	近隣の散歩、プランターへの灌水、花苗定植、生け花、草取り
一人での外出	月1回	一人で路線バスを利用し、買い物、歩いて美容院や本屋等。

共同生活をする仲間として、お互いを思いやる気持ちを大事にし、仲間意識を持てるようお互いが役割を持って参加し楽しめるよう支援を行った。

(3) 健康管理

内科・歯科・皮膚科・神経科・眼科への通院の支援を行った。7回のコロナワクチン接種や定期的に歯みがき支援や治療のための支援を行った。

帰宅後のお茶のうがいや手洗いの徹底をはかり、感染症等の予防を行った。

5. 災害防災対策

避難訓練を行った。

実施日	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和5年 7/15 (木)	火災・避難	利用者 7名 職員 3名 その他 1名 11名	18時40分	夕食後、1階廊下より出火を想定して、煙を吸い込まないようにマスク等で口を覆い、駐車場に避難した。 ※消火器の点検
9/18 (月)	地震・避難	利用者 6名 職員 2名 その他 0名 8名	8時25分	東海地震発生を想定し、館内放送で地震発生のお知らせを行い、テーブルの下やトイレ等に身を隠し、揺れが治まってからヘルメットを被り、外靴を履き、駐車場に避難を完了した。地域避難場所の百里会館へ移動した。
令和6年 3/7 (木)	火災・通報	利用者 7名 職員 3名 その他 1名 11名	17時00分	台所より出火を想定し、消防署への通報を行った。
令和5年 3/10 (日)	火災・避難	利用者 5名 職員 2名 ショート 0名 7名	14時35分	台所より出火を想定し、館内放送で台所より火事発生のお知らせを行った。リビングの窓より上靴のまま足元に注意して駐車場に避難した。歩行困難の方は介助した。 ※消火器の点検

6. その他

- ・個別支援計画についてご本人との面談を随時行い、3カ月毎に支援会議を行った。
- ・虐待防止について、チェックリストを活用した。
- ・感染症防止対策として、うがい手洗い、手指の消毒、換気を行った。

やしま・あかね 中期経営計画 (別紙)

視点		2023年度	評価	備考
利用者の視点	やしま・あかね	グループホームという生活の場所で一人ひとりの思いをしっかりと受けとめ、ゆったりとした生活環境を作り上げていく。	△	一人ひとりの希望にそう環境を整えることができる限り支援した。
		高齢化に伴う対応について体制を整える。	○	65歳以降の利用について勉強会を行うことができた。
		・バランスのとれた食事の提供 ・歩行困難者への環境を整える。	○	・利用者の希望も取り入れながら、バランスの取れた食事の提供ができた。 ・利用者に合わせて減塩や刻み食を提供した。
		個々の健康状態や日常生活動作、QOLの変化の把握	△	面談をして利用者の思いに寄り添う支援をした。コロナ罹患者も出たため常に健康状態に配慮して過ごした。
		利用者のニーズに合わせて休日の余暇の充実を図る。	×	コロナ禍もあり余暇活動は最低限にとどめた。
		利用者のニーズをつかみ入所の待機者を確保する。	△	利用申込1名を把握するにとどまっている。
財務の視点	やしま	定員7名を確保し、運営の安定化を図る。	△	8月～9月にかけてコロナ罹患者が出て、レッドゾーンでの生活を余儀なくされ、自宅待機も依頼した。
		償還財源の確保	△	運営状況はきびしかったが滞ることなく償還できた。
		ショートステイ事業の継続	△	利用率アップにつなげることができた。
		定員7名、短期入所1名の利用を常時確保し、運営の安定化を図る。	△	コロナ禍ではキャンセルを依頼することになった。
	やしまあかね	数値目標設定とモニタリング	△	計画に沿って利用率など数値を確認した。
	あかね	利用者のニーズをつかみ入所の待機者を確保する。	△	入所希望者について常に状況を把握した。
		改修にむけての貯蓄（設備費・エアコン等修理・浴室・トイレ等の改修）	○	次年度に向けて繰越金の増へつなげていく。
業務の視点	あやしねま	他のサービス利用を柔軟に取り入れ、日中活動の事業所、相談支援事業所や移動支援、事業所等と連携を図り、個々の障害特性や支援方法を共有しながら支援する。	△	・5月には5類に移行したコロナではあったが外部の出入りや外出については慎重に対応した。 ・感染に気を付けて移動支援の利用・外出等を行なった。(あかね)
		防犯、防災対策の充実	○	防犯マニュアルに沿って点検箇所の情報共有し避難訓練を定期的に行なった。
		安心安全な施設作り	○	点検チェックシートを活用し安全に対する意識を持って取り組んだ。
	あかね	人件費、研修費の確保	△	他の感染症が発生し、外部の研修への取り組みができなかった。
		・労働環境の整備 ・業務の見直し点検（効率化）、職場の充実	△	有給制度を取り入れ労働環境の整備に取り組んだ。
人材の視点	やしまあかね	施設長とサービス管理責任者の体制の確立	△	今後に向けて具体案を出していく。
		組織の見直し（2つのグループホームを総括する組織作り）	△	今後に向けて具体案を出していく。
		現支援員さんの高齢化に伴う退職者の補充	△	70歳以上の方3名の退職に伴い新たに3名の採用をした。
		チェックシートの活用	○	虐待の内容を盛り込んだチェックシートに変更活用した。
		人材育成のための時間の確保	△	合同支援会議及びサポーターズカレッジ視聴などを行い、資質の向上に努めた。